

【英語】 < 中学校 第2学年 >

1 結果のポイント

「聞くこと」について、短い英文を聞いて、その英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力をみる問題では、正答率がほぼ90%を上回っている。

英語による問いかけから相手が尋ねたい内容を正しく理解して、適切に応答する力をみる問題では、正答率が50%を下回っているものがある。

「読むこと」について、まとまりのある英文や会話文を読み、具体的な内容を正しく読み取ったり、大まかな内容や大切な部分を読み取ったりする力をみる問題では、複数の問題の正答率が、80%を上回っている。

会話の流れを理解して、状況に応じて適切に応答する表現を選択する力や場面に応じた適切な英語表現の使い方を理解する力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。

「書くこと」について、英文の構造を理解して正しい語順で書く力をみる問題では、正答率が、70%程度のものである。

伝えたい内容が正しく伝わるように適切な表現を用いて書く力や、一つの話題について、読み手を意識しながらまとまりのある英文を書く力をみる問題では、正答率が50%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 問いかけに対して適切に応答する問題の例

< 問題 > ① の2 (テープ問題)

これから放送するように英語で話しかけられたとき、どのように答えますか。応答として最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。話しかけは2回ずつ放送します。

2 (放送文) I think it's about noon. Shall we eat lunch now?

ア Yes, I did. イ No, they can't. ウ Good idea. エ It's cloudy.

< 結果 > 正答率 48.1% (正答...ウ)

< 分析 >

この設問は、問いかけに対して適切に応答する力をみる問題である。

正答率は、3問とも50%程度であり、1～2文の短い表現から、場面や相手の意向を理解し、適切に応じる力は、第1学年と同様、十分身に付いているとは言えない。読むことについても同様の傾向がみられ、場面に応じた適切な英語表現の使い方を理解しているかをみる設問で正答率が60%を下回っているものがある。⑦の1では、Can I use it? に対して、Yes, please. と答えるべきところを、誤答には That's right. を選択したものが多く、許可を表す Yes, please. (いいですよ。) と賛同を示す That's right. (それでいいです。) を混同したと思われる。

このことから、英語表現に対して聞き慣れてはいるが、相手の意向を理解して適切に応答する際の適切な表現力にまでは十分高まっていない。今後は、正しい言語形式によるもの、言語形式によらないもの(言語形式によらないが、定型表現によるものもある)に留意して意思疎通を図るコミュニケーション活動を通して、意味と形式の両面から定着を図ることが大切である。

(2) 話の要点を読み取る力をみる問題の例

< 問題 > ⑤ の3

タローの下線部の問いかけに対する「励ましのことば」として、適切な英文はどれですか。

(参考) What do you think about my dream? 問題文の中に示された英文は省略

ア You have a nice dream. I think you can be a good cartoonist.
イ Your dream is very nice because comics are not good for students.
ウ I like comics, too. But I don't think your dream is very good.
エ Baseball is fun. I think you can be a good player.

< 結果 > 正答率 80.7% (正答...ア)

< 分析 >

この設問は、大まかな内容や大切な部分を読み取る力をみる問題である。

正答率をみると、複数の問題で80%を上回り、ある程度まとまりのある英文を読み、大まかな内容や大切な部分を読み取る力については、ここ数年間安定した力を示している。

⑤の3は、英文全体からタローの夢や考えていること等を読み取り、タローへ励ましのコメントとして適切なものを選択するという思考・判断を伴う設問であるが80%の正答率を示した。このような、話の内容や書き手の意見等に対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりすることができるよう、目的をもって英文を読むことは、新しい学習指導要領の「読むこと」の言語活動の指導事項に新たに示されたことであり、今後も大切にしたい。

(3) 内容が伝わるように正しく書く力をみる問題の例

<問題> 9 の2

タケシ (Takeshi) は、A L T のグリーン先生 (Mr.Green) に、今度の土曜日に実施されるサッカーの試合 (a soccer game) について手紙を書こうと考えました。下にある<メモ>に書かれている内容が、グリーン先生に正しく伝わるように、それぞれ英文を書いて手紙を完成させなさい。ただし、1と2は、下線部にある英語につながるように英文を完成させること。

【開始時刻】 10時 _____ ten.

<結果> 正答率 33.4% (正答例... The game starts at ten.等)

<分析>

この設問は、伝えたい内容が、読み手に正しく伝わるように書く力をみる問題である。第1学年では正答率が80%程度であるが、第2学年では50%を下回り、無回答率が30%を超えている。10の設問のように選択肢を並べ替えて英文を書くことについては、正答率が70%近くであり無回答率もわずかであるが、9では、誤答の中に、適切な主語が記述されていないもの、動詞が記述されていないもの、語順が適切でないものも多くみられる。これらのことから言語材料が増えてくる第2学年の1月段階では、表現したいことと既習の言語材料が適切に結び付かず、自分で適切な主語や動詞を決め出して書く力にまでは高まっていないと考えられる。まとまりのある英文を書く力をみる8の設問では、例年より改善傾向にあるが、9と同様の誤答が多く見られ、無回答率も30%近い。まとまりのある英文を書くことにつなげていくためにも、9のような具体的な場面設定の中で、適切な主語や動詞を決め出し、伝えたいことを適切な言語材料を活用して正確に書く力を付けていく必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

3年間を見通して、重点を置く指導事項の決め出しを!

- ・課題となった指導事項を重点とする単元を抜き出し、付けたい力の一覧表を作るなどして、3年間で繰り返しながら系統的に指導できるように教科部会で年間指導計画を見直す。
- ・課題となった指導事項について、各学年各学期で目指す姿を、具体的な英文やコミュニケーションを図る姿でイメージする。第1学年から第3学年までを見通した中で、第2学年で定着を図る必要のある指導事項の具体的な内容や言語材料を明らかにする。

<指導事項を単元レベルで具体化した例>

- * 聞くこと(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること
困ったことが起きた場面で特有の表現 What shall we do?に対して、適切に応じること
- * 書くこと(ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと
事実と感想を、過去形等を正しく用い、説明の順序等に留意ながら整理して書くこと

活用を通して習得を図る学習等、単元における本時の役割を明確にした単元指導計画を!

- ・単元の指導目標と単位時間の役割を明確にし、単元の導入から終末までの単元指導構想をもつようにする。その際、新出の文法事項等の言語材料の習得を主とした学習と、それらを活用して、実際にコミュニケーションを図ることを主とした学習の両方を効果的に位置付ける。
- ・単元終末の言語活動で目指す生徒の姿を具体的な英文でイメージし、その具現に向けて、単元を通して、計画的・継続的に帯活動等を行うことも効果的である。

<帯活動の例>

- * 語彙や文法事項の習得を目指した個々による集中練習
- * 説明する、討論するなど、話すこと・書くことの技能を高めることを目指した活動
- * 単元終末に目指す言語活動を繰り返し行い、言語活動の方法やマナーを身に付けていくことを目指した活動
- * 前時に学習した表現を用いて家庭学習で創作してきた英文を交流する活動等

.....例

(2) 指導方法の工夫改善

書くことと他の領域の言語活動をつないだ指導を!

- ・読むことと書くことをつないで指導する。ストーリーの理解にとどまらず、生徒が自分の体験を書くことができるようにすることを念頭において、文章の構成や語句の使い方等を指導する。

<報告文を書くことの例>

- * 事実と感想を含んだ報告文を書くために、教科書の英文をモデルとして、説明の内容や順序を整理したり、動詞と名詞の組合せを一部変えて書いたりすること

- ・話すことと書くことをつないで指導する。対話や即興スピーチ等、話すことの言語活動を十分に行った後、話した英文を書いたり、話した英文を再構成して書きまとめたりするなど、書いて確かめる学習を大切にする。その際、日本語と英語の発想の違いに留意して適切な主語を決め出すことを指導する。

<適切な主語を決め出す例>

- * 「試合の開始時刻は10時です。」
「物・こと」を主語にする。

The game starts at ten. / The start time is ten.

「人」を主語にする。

We begin the game at ten.

We have the game from ten o'clock.

* 「高山には美しい場所がたくさんあります。」

「物・こと」を主語にする。

Takayama has a lot of beautiful places.

「人」を主語にする。

We have a lot of beautiful places in Takayama.

You can see a lot of beautiful places in Takayama.

There is / are を使う。

There are a lot of beautiful places in Takayama.

.....例

文法事項とその表現が使われる場面や言語の働きをつないだ指導を！

・第2学年では、未来表現やto不定詞等について学習する。これらには、自分の予定、考えや気持ち述べる働きがある。それらの表現が有効に使われる場面を設定し、活用することを通して習熟を図るようにする。

* 未来表現を用いる場面の例 週末の予定について対話する。夏休みの計画を書く。

* to不定詞を用いる場面の例 My dream のスピーチ原稿を書く。(I want to be a doctor. / I will study hard to be a doctor.) 映画の誘いを断る。(I can't go to the movie today. I have a lot of things to do. I'm sorry.)

・言語活動の指導に当たっては、次のようなことが有効である。

* 言語活動を前半と後半に分け、その中間に、生徒の状況に応じて全体で再練習した後、後半の活動に移ること

* 正しい語順や適切な文型が定着しているかを見届けるため、一人一人が発話する場を、言語活動を行う前後に位置付けること

・言語形式によらない応答の仕方について、その応答が必要な場面を設定し、言語の働きに着目させながら、第1学年で指導したことも含めて、継続的に指導する。その際、一つの内容に対して、多様な表現があることを例示し、積極的に使ってみよう指導する。

<言語形式によらない応答例>

Oh, you have a pen. Can I use it?

Yes, please. / Here you are.

<多様な表現があることの例>

* 「楽しかった。」

「人」を主語にする。I was happy./ I was excited./ I enjoyed it very much. / I had a good time.

「物・こと」を主語にする。It was fun. / It was interesting. / It was a happy event. /

It made me happy.

場面や状況から、文脈や会話の流れを推測し、理解する指導の充実を！

・聞くことや読むことにおいて、英文のスタイル(日記、紀行文、手紙、物語、Eメール等)や場面(電話での会話、道案内等)に応じて、「だれが、何を、何のために」等の内容を類推しながら、全体から部分へと理解していくプロセスを大切にする。

・場面や状況、話し手や書き手の意向を理解することの大切さについて指導する。その際、質問や依頼等の1文だけを取り上げるのではなく、それらが生まれた背景、会話の流れ、代名詞による言い換え等を大切に、前後の文を含めて聞いたり読んだりする。

・まとまりのある文章の概要をとらえたり、話の流れを意識して読んだりすることができるようにするために、教科書等の読み物題材を使って段落にタイトルを付けたり、文の順序を入れ替えたものを並べ替えたりするなどの活動を行う。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

家庭学習と授業をつないだ学習習慣の確立を！

・家庭学習で書いてきたことを、授業で交流したり発表したりして、学習意欲の向上を図る。

<例> 家庭学習で昨日の生活について書いてきたことを、次の授業の始めに読み合う。

・授業と家庭学習をつないで、生徒が主体的に家庭学習ができるような働きかけと見届けを充実する。

<家庭学習例>

* ノートの練習指導

次の授業の始めに、教師が見て回り、励ましの声をかける。

* 音読指導

次の授業の始めに、ペアで読み合い、上達を確かめ合う。

* ドリルブックの活用

次の授業の始めに、文法事項のポイントを確認する。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16~H18)及び授業改善推進プラン(H19・H20)」を参照する。(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)

例 : 平成20年度 授業改善推進プラン(英語力向上アクションプラン) 第2学年
新しく学習する言語材料を繰り返し使って定着を図る指導計画の改善に取り組んだ実践

例 : 平成20年度 授業改善推進プラン(英語力向上アクションプラン) 第2学年
生徒が主体的に伝え合う言語活動の工夫改善に取り組んだ実践

関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、P89 意識調査結果を参照する。

中学校第2学年英語の授業において、生徒が楽しいと感じるのはどんなときか。

第1位: 先生から説明を聞いて英文の意味やその使い方が分かったとき

第2位: 自分で単語や本文を音読することができたとき